

時局日誌

(二)

T H 生

戰局の進展して我帝國陸海軍の勇猛果敢は連戰連勝各國をして驚歎し羨望せしめ遂に我國を無援孤立の境地に導かんとする深刻な情勢となつた、舉國一致、國民一如は愈々濃厚ならしめねばならぬ。各方面での聲を聞くに、東京日々新聞政治部副部長今尾登氏は親しく北支及上海の第一線の戰況を視察訪問し歸來其の感想を述べて云ふに戰地に於ての將兵の忍苦忠誠振は筆舌の寫し得ざる所であるが銃後國民の餘りに暢氣で戰爭をば空吹く風とばかりにながめ、出征者の家遺族に對し殆ど形式と御座なりに取扱ひ眞情の發露を見ること極めて稀である。戰線に立つ將兵に對しても餘りに無關心であるのは腹立たしさを覺ゆる、特に英露の如き反日空氣の濃厚を加へつゝある國際關係に就いても之

を等閑に付し去つてはならない、實に國際關係は戰局の進むに従ひ益デリケートとなり我國の不利は増大するばかりである。元來現地解決及戰局不擴大を支那に向つて交渉したるに拘らず今日の如き状態となつたのは一は日本に對する支那側の認識缺如、二は支那に於ての反日毎日教育の事實、三は支那の自矜自惚、四は日本の支那現狀に關する認識の不足に原因するが最早今となつては此等を檢討することは遅い、徹底的に戰果を收むるの外はない、乍併將來は國民全體が精神的教育の徹底化を遂行し自己放棄の信念を涵養するにあらねば憂懼に堪へざるの狀態を招來することなしと誰が斷言し得るであらうかと悲痛な意を洩して居る。早稻田大學理工科長工學博士山本忠興氏は、支那の暴

狀に對して帝國の威嚴と道義心とが敢然兵力を以て對應するの態度に出でたるは當然である、又蔣介石宋美齡夫人達が宗教的生活を營むと謂はるゝも唯物主義の共產黨を容し而かも排日侮日の教育を長年間施して純眞なる男女青少年をして反日思想を煽り國際道義心をなからしめた結果としての交戦は今更國際聯盟に哀訴するも將又九箇國條約を援用せんと振舞つても六莖十菊の業であつて信なくして法に依らんとしても神は之を許さぬ、我帝國が兵力を用ゆるのは實に已むに已まれぬ正道で支那國民と戦ふのでなく現在の政權を持して其の國民の進路を誤らしむるものと共產主義を支持して東洋永遠の平和を脅かすものと鬪ふに在るものである、何所に不徳不義の存するか自らの非を悟り其の態度を改むるならば我國は直に和を修め協力の途に出づる用意がある。我國が曩に滿洲の獨立を援助し何等求むる所なきに徴しても領土的野心を有せざる事は明瞭である。唯望む所は資源の開發と東洋和平の確保のみである、基督教には國境がないが吾等日本基督教徒には愛する祖國

がある敢て諸外國人の妄を解かんと歐米の知人に呼びかけた。又日本經濟聯盟會長郷誠之助氏は英國の關係要部に反日運動阻止を要望した。其の中に「今回の支那側の計劃的挑戰態度に基因するもので最近兩三年間支那は對日作戰の準備として上海附近においては勿論北支戰區域内に於てすら強力なる軍事施設をなしつつありしことは支那における列國人に於てすら周知の事實である準備成れりと見るや日本駐屯軍に對し積極的挑戰態度に出で上海に於ける日本海軍將校の虐殺の如き或は支那側が開始したる如きは其證據にして要するに今回事態の責任は支那側が全部之を負はざる可からざるに日本に對し動もすれば海外においてアグレツサーと云ふ標語の使はれ居る如きは事實真相を甚しく誤認してあるものである反日運動の如きは之を排撃阻止せられんことを切望す」とあるを見る實に吾々は其の立場立場に於て躍進の途上に横はる最大難關を突破しなければならぬ、舉國一致犠牲奉公の誠を竭して此後に來るものに備ふるの覺悟を要す、之れ時局の推移を凝視して怠つてはならぬ所以である。時局日誌の必要は茲に存する。

九月十二日

十二日午前楊行鎮は陥り同地一帯の陣地は既にわが掌中のものとなつた、一方羅店鎮方面の部隊も若干の進出を見た聞北方面の敵は前夜又復夜襲し來つたが、我陸戦隊は邀撃してこれを斥け戦線異状なし、十二日までの戦果より羅店鎮、月浦鎮、楊行鎮、殷行鎮、沈家巷鎮と租界東部境界とを略結んで我が戦線の體勢整ひ益々優勢を加ふるに至つた又十二日午前同じく廣東の惠陽廣九鐵道の石龍に爆彈を投下した、又同朝海軍〇〇航空隊は杭州郊外の例の寬橋飛行場を又も襲撃して殘部を剿滅した、一方我が軍艦〇隻は十一日早曉再び廣東への入口珠江河口の赤灣要塞を砲撃した。

馬廟占領後青縣へと長驅した我が軍は十二日は馬廟西北の側面殘敵に對し攻撃を加へその一陣地を占領した、察哈爾〇〇部隊は平綏沿線より退却せる敵を追うて十一日夕刻、同省の西省の西南隅の要區

蔚縣を抜くことを得た、この結果察哈爾省内の都邑の主なるものは殆ど我が有に歸するに至つた。

九月十三日

上海東部のわが軍は陸軍陸戦隊とも十三日拂曉より追撃の行動を起し軍工路に近き遠東競馬場まで我が手に落ち次で市廳舎を中心とする一帯の地區を占據するに至つた、この日吳淞の我が部隊は戰車を先頭に堂々軍工路を進み滬江大學に到達し吳淞との連絡は茲に成つた又吳淞方面より鐵道線路に沿うて南下しつたあつた部隊は早くも西北方より江灣に迫つてゐる、一方楊行鎮を占據して進撃を續ける部隊は激戦しつゝその西方の大場鎮、劉家行鎮に近づき、月浦鎮を取つて西進中の部隊は羅店鎮近く進出した、之に應じて江上のわが軍艦は巨砲を浴せかけ我が陸海の空軍も逃ぐる敵、集まれる敵に對して擲げて擲げまくつた、かくこの日一日にして素晴らしい戦果を納め

た。疾風の如く前進を續ける北支戰線の作戦部隊は進出し十三日朝大同を呆氣なく占據した、一方十一日察哈爾省西南隅の蔚縣を陥れた別働隊は十二日續いて陽原を席卷して直ちに山西省内に撃ち入り十三日朝省境の要衝廣靈を占領、茲に於て察哈爾省内の平原には敵影を没するに至つた十三日早朝我が海軍飛行隊〇機は廣東の門戸にある第一の要塞虎門砲臺に對し大爆撃を敢行した。

九月十四日

東部戦線の敵が江灣鎮附近に集結した爲今や上海戦の中心はここに移つて先の上海事變の激戦を再現するに至つた、江灣鎮は吳淞方面より進み來つた部隊によつて北方より、東部戦線より市政府地區を経て追撃して來つた陸軍及び陸戦隊によつて東方より、又陸戦隊の北部隊によつて南方より、三方包圍の形となり、十四日朝來之等各部隊は海軍航空隊とも協力し、全ピッチを上げて猛烈な

る攻撃を開始し、一方その附近の陣地を片ツ端から抜き始めた、なほこの日我が戦軍隊は東部戦線より坦々たる大道を轟進して北部戦線に到着し、更にこの方面の陸戦隊との連絡もつくに至つた、楊行鎮より劉行鎮に向け進む田上、石井兩部隊も昨日その總攻撃を開始した。

平漢戦線側面の山嶽地帯の敵を一掃し得た本線の戦局は新展開の時期に入つた。

津浦線と本線との中間地帯の永定河右岸の地域に長く蟠居してゐる敵は本戦線の味方と合流すべく退却を始めたので十四日我が〇〇隊は渡河して追撃に移つたが同時にわが〇〇隊も亦河を渡つてその南方水清縣の敵陣地に對し我が空軍との協力下で攻撃を開始した、この日我が飛行機の精銳は大學して山西の門戸として本線北端の最重要點をなす石家莊に到り大爆撃を執行して徹底的の損害を與へた。馬廟、青州と突破し來つた沼田、長野兩

部隊は前日夕刻更に青州に續く興濟鎮を占據した。

軍艦〇〇と〇〇驅逐隊は前日に續いて十四日早曉再び南支第一の要塞虎門砲臺の攻撃に向ひ、附近にあつた敵艦二隻を砲撃した結果、二隻とも大破擱坐するに至つた廣東では我が海軍の攻撃を恐れ黃埔附近において船を沈め航路の一部を自ら封鎖。

臨時資金調整法第十一條は昭和十二年九月十五日ヨリ施行(勅令四九二號)公布。

九月十五日 去る昭和七年九月十五日滿洲國獨立を承認して以來早くも滿五ヶ年を経過したので麻布區櫻田町滿洲國大使館に於いて承認五周年記念式が舉行された上海戦區の過目大進展に次いで北支に於ても昨十五日の平漢線を中心とする戦績は更にそれ以上の目覺しき變化を示し山西省に於ける新局面といひ南北を通じて各戦線とも今や確乎たる地歩を築き得た

なほ寺内、松井兩大將はそれ〴〵最高指揮官として既に現地で指揮に當つてゐる平漢及び中部戦線平漢を挾んで琉璃河を正面とし左翼の山嶽地帯と右翼の濕地地帯とを結び二十里の防禦陣を築いて頑強に抵抗し來つた敵も次第に新動搖を來したので我が軍の一部はすかさず永定河の線を突破したが明ければ十五日、戦機いよ〴〵熟してこの日北支獨得の秋の青空の下に勇躍しつゝ空に地上に一齊に起つて進撃を開始した、雜軍萬福麟軍の右翼陣に逃げ足隨る早く固安城は朝の内に陥落し、敵は南方に退却、霸縣、容城等に集結し初めたが、更に我が空軍のため擾亂され留まる所を知らぬ状態である、一方左翼山嶽地帯の戦線も午後に至り最後まで堅陣を誇つた房山まで占領し盡された。津浦戦線馬廟陥落後退却の敵軍は本戦線の本營滄州付近に集結しつゝあつが尙西方側面に殘留の敵は我が軍の進撃を阻む

により十五日我々軍は空軍の協力を得て馬廟西方の敵の掃蕩に着手した。

大同方面一帯より總退却せる敵軍は長城線雁門關の要害に踏み止まるべく盛んに新陣地を構築してゐるが、これに對し快足の我が軍先鋒に逸早く懷仁を占據したこの日我が空軍は山西の心臟太原に現れ兵工廠を爆撃して先づその膽を奮つた又別隊は長驅して河南洛陽の飛行場をも襲撃したがその際敵機八機が立ち向つて來たのでこゝにこの方面における最初の空中戦が展開され大格闘の末敵機を敗退させた。

上海の我が諸部隊は霖雨の中で奮戦を續けた、田上、石井兩部隊の羅店鎮より大場鎮及び劉家行鎮前面の敵に攻撃を加へつゝあるが、羅店鎮西北方の敵軍にあつても昨晩大雨をついて我が第一線に逆襲し來り激戦の後之を撃退した。

支那政府の聯盟首席代表顧維鈞は十三日

アヴノール事務總長に對し日支問題の提訴通告並附屬文書を提出したので我外務當局は之に對し帝國の行動は當然なる旨の聲明を發表した。

九月十六日 永定河の渡河の完了して追撃する平漢戦線の我が軍は前夜に引續き十六日もなほ固安南方にあつて抵抗する敗殘軍の撃破に當つた、左翼及び正面の敵は中央軍の精銳が自然物を利用して頗る堅固な陣を布き頑強に防禦して居り、殊に左翼は山嶽戦にかゝるため一層困難を伴つてゐるが、我が第一線は勇敢に之を排除して前夜來房山附近の要所二三を奪取した、この日早曉我が空軍は大舉して本戦線の本營たる河北省の首都保定を空襲して大々的の爆襲を行ひ、ためにその中央部は破壊され各所に火災が起つた。津浦戦線、前日來我が軍が攻撃中の馬廟西方側面の南趙扶に據れる殘敵は十六日撃滅され同地は我が手に落ち、之がため

いよ／＼滄州攻撃戦に移り得る段取りとなつた。

山西戦線、南口戦を経て察哈爾に進撃し蔚縣、陽原等を攻略し更に山西省内に進入して廣靈を占領した我が栗飯原部隊は早くも降雪ある程の寒氣と山嶽地帯行軍の困苦とも戦ひつゝ十六日渾源に達したなほ天候に恵まれずその中にあつて我が江灣包圍陣は本格的攻撃を開始、陸海協力の下に各要點を攻撃し、徒歩部隊は果敢なる襲撃を行ひ一部は敵陣地に突入した、羅店鎮方面にあつてはこの日左翼が進出して若干の陣地を陥れ楊行鎮方面より劉行鎮の前面の陣地を攻撃中の部隊も亦略同様の戦果を納め得た、なほ我が陸戦隊は突如前日江蘇省北部、隴海鐵道の終點の重要地海州沖の車牛山島に上陸占據し更に敵艦を寒からしめた。臨時資金調整委員會官制(勅令四九八號)公布即日施行

九月十七日 四十有餘年前の明治二十七年

九月十七日黃海南洋島沖で當時東洋無比と誇る清國海軍と海戦し大勝を得たる日なので此日を黃海大海戦記念日と定め我が海軍では祝賀した。

平漢戦線、十七日の涿州平野に於ける我軍の大勝は正に事變以來にして且歴史的のものであつた涿州は往年山西軍を率ゐた現綏遠探題の傅作義が奉天軍の大軍に圍まれ楠流の兵法运用めてよく一ヶ月の籠城に堪へた要害堅固の地だが、この度は戦はずして脆くも陥つたのだ、石黒、坂西兩部陸の一部は逸早く涿州の南方松林店を午前八時に占領し、平漢線を遮断し又森田部隊は先廻りして更にその南方の北三家へ進出して敵の退路を斷つた、敵は西南方の深水、易州方面へ潰走し、その結果涿州の前衛陣地たる琉璃河一帯に取殘された孫連仲軍、中央軍等の約五箇師は、西方の山嶽地帯よりは房山附近の

石樓村を占領せる步、砲部隊により東方よりは馬頭鎮を占領して迫つて來た遠山部隊により、即ち前後左右より我が軍に取圍まれ進退谷まるに至つた、一方敵本陣たる保定に對して前夜我が陸軍空襲部隊創始以來始めて夜間爆撃を敢行、一方地上部隊の一部は固安東方を南下し十七日共南方の牛駝鎮を取つて更に南進その背後にある高碑店等の次の敵に向ひつゝある。上海戦線あつては十六日より行動を起した和知、○○の兩部隊は羅店東方の馬橋を奪ひ更に月浦鎮と羅店鎮とをつなぐ線まで進出した、一方楊行鎮前面の敵は同日大舉して同方面の我が軍に向つて逆襲し來り我が田上、石井兩部隊は之に應じて大激戦の結果昨晩に至り之を撃退した。

九月十八日 十七日は九・一八記念日、各戦場は敵も味方も勢ひ込んだが特に平漢戦線の我軍は前日大戦に乘じ更に奮ひ起

つた、涿州附近の敵は入り亂れ而もなほ抵抗を怠らざるため之が掃蕩は想像以上の骨折りである、涿州戦の我が各部隊は着々前進して涿州城包圍の部署についたが東北方より進出して來た遠山部隊が午前十一時遂に涿州城に達し一番乗りの殊勳を樹てた、正面中央部隊の一部は琉璃河を渡り敵の遺棄せる裝申列車に打乗り涿州城を右に見つつ南下し長驅高碑店に達した。

平綏戦線、山西省の北鎮大同を占領した我が○○軍は改めてこゝを據點とし千田部隊は更に我が派遣軍の最前線部隊となつて北を指して前進を開始し空軍その他○○部隊の協力の下に敵を撃破しつゝ十五日既に遠く綏遠の胡地に入り十七日早くもその入口の要害豊鎮を占領した。上海江灣包圍陣の一方を承る松本部隊は前夜その北方の吳巷の陣地を占領した、包圍陣は漸次壓縮されつつあるが江灣の

溝の深さいくばくか、敵陣甚だ堅く昨日も夕刻より我が海軍機によつて爆撃が行はれた、この日羅店鎮方面の左翼にあつては二三の敵陣地を奪取し、楊行鎮方面よりの攻撃部隊も亦略同様の戦果を収めた、海軍機は又兩日間羅店鎮方面の第一線及び闡北において活躍をなしその間敵機と空中戦をも演じてこれを走らせ、陸軍機も昨午後劉河、嘉定の邊まで出かけ敵の大陣營を爆撃した、この夜敵機は浦東方面より虹口、楊樹浦上空に飛來し照明彈を投下して夜襲を試みたが我が猛烈なる砲撃に遭ひ一機は射落された。

我が驅逐艦〇隻は十六日夕刻近頃問題の海南島に到りその北端の同島唯一の港河口を砲撃した、
地方土木職員制中改正(勅令五〇三號)公布。
九月十九日 南京大空襲の日が來た、我が海軍航空隊は愈十九日午前九時未曾有の

大編隊を以て某基地より首都南京を大舉襲撃し一隊は飛行場、兵工廠を始め南京のあらゆる軍事施設を片ツ端から爆砕して行き、一隊は應戦し來つた敵戦闘機二十數機と出で合ひ入り亂れて壯烈極まりなき空中大合戦を演じた末二十一機まで叩き落し更に包容の根據地に於ても空中戦闘の結果五機を射止め合計二十六機を撃墜しその際我方は三機の犠牲を出した外全部無事歸還して世界空中戦史に輝く記録を作つた、然もなほ敵は息つく暇を與へぬ追撃戦に出で午後五時再び數十機を以て大舉して南京を襲撃し爆撃又爆撃更に残された軍事機關を破壊した外又復大空中戦となつて六機を撃ち落して滿都を戦慄の坩堝に投げ込んでしまつた。

十九日朝我が陸軍の〇〇飛行隊は太原より大同の我が軍襲撃のために飛來しつゝある敵機九機をその途中の懷仁上空において遊撃し壯烈なる空中戦を以て敵の三

機を撃墜し、逃ぐる六機を追うて太原に到りこれに加勢の新手とも再び空中活劇を演じ更に四機を撃破し都合超爆戰兩種の七機を失はしめ、なほ格納庫等をも爆破して殆ど同地の空中根據地を消滅せしめた、石家莊爆撃、又我が陸軍飛行隊の各部隊は編隊を以て石家莊をも襲つた、その先頭は午前七時同地上空に達し再度の大爆撃を開始、敵は例の如く高射砲、高射機銃を亂射して來たが我が各部隊は悠々その目的を達して歸還した。

涿州平野戦も漸次終幕に近づきつゝあつて、次で更に高碑店以南に後退せる敵と涿州西南涑水方面の山嶽地帯に新陣地を築構せる敵とに對する攻撃に移らんとしてゐるが、十九日夕刻涑水西方の重地易縣は我が〇〇第一線部隊によつて占據されるに至つて本戦線の戦局は著るしく單純化されて來た。

九月二十日 長谷川第三艦隊司令長官は昨

十九日付を以て支那軍作戰の本營南京にある一切の軍事施設に對し爆撃を行ふに
より二十一日正午までに第三國の國民は
避難されるやう又その艦船も南京江岸の
下關から上流に避泊するやうにといふの
であつて、同時に支那非戦闘員にも避け
るやうにと警告した、二十日午前中海軍
航空隊は南京を空爆したがその際僅に手
向つて來た七機程の内四機まで撃墜し
た、なほわが艦隊飛行機〇〇機は江蘇省
北部の津浦線、隴海線の交叉點徐州に對
し前日及び二十日の二回に互り空襲を行
ひ又前日は隴海線の終點海州に初見參し
た、蘇州にも落した

上海羅店鎮附近の部隊は十九日來攻勢に
出で砲撃と空襲と調子を揃へて猛進し前
夜二陣地を抜き二十日と續いて次の諸陣
地を攻撃した。

綏遠戦線も豐鎮を占領した部隊は二十日
より更に進撃を開始したが、他の部隊も

興和を占領し、更に〇〇〇と協力する内
蒙軍も察哈爾の要地商都より支那兵を驅
逐して二十日綏遠に入りかくて平地泉は
三方より遠巻きにされて來たのみならず
大同、懷仁を経て西北へ長驅せる部隊は
早くも綏遠境の長城線に達し二十日右玉
を攻めて直にその首都歸化城を脅かすに
至つた。

九月二十一日 上海戦線の羅店鎮附近一帯

の戦ひは愈白熱し盛んに火花を散らしつ
ゝ敵を漸次追ひ込んでゐる、月浦鎮、羅
店鎮との間に待機中だつた〇〇部隊は朝
來羅店鎮前面の敵陣地に對し砲兵隊掩護
の下に側面より猛烈なる進撃を開始し午
後四時までには鐵條網を張り廻らしたそ
の南方の諸陣地を陥れ更に進んで羅店
鎮、劉家行鎮間の道路を背にする堅固な
る敵陣地向つて攻撃を續けてゐる、又羅
店鎮北方の最前線にある我が〇〇部隊は
朝來同時に行動を始め夕刻までには既に

敵陣地を突破して二キロ後方にある次ぎ
の敵陣地向つて進出してゐた。

二十一日河岸を變へて我が海軍の荒鷲數
十は翼を揃へて大舉して廣東を襲つた、
空前の大空襲として廣東では上を下へと狼
狽し、盲目滅法に射撃し來り敵機も十數
機突進し來たので、大接戦を演じた末十
一機まで撃墜した上一時間の長きに互つ
て上空をかけ廻つて悪天の中で飛行場等
を探し出して爆碎し午後再び襲つた、な
ほ艦隊飛行機〇機は江蘇省海州の海口た
る連雲港をも兩日續けさまに襲撃して重
油タンク新築港棧橋その他を破壊した。
前日固城鎮奪取に續いて同夜の内に早く
もその南方の徐水に入り、今朝より左右
翼と戦線を揃へつゝ進軍を續けてゐる。
平漢戦線と歩調を揃へて進みつゝある津
浦戦線は平漢戦線の保定に對すると同様
いよゝ〇滄州に迫つて來てその前衛姚官
屯一帶の陣地に對し包圍攻撃に移つてゐ

るが、今曉は滄州に對しても大爆撃を行つた。

北進中の我が快速部隊は本日午前中に早くも平地東南方一里の舊平地泉を占據した。

九月二十二日 去十九日の長谷川長官の豫告に従ひ南京のあらゆる敵對機關を撃滅すべく我が海軍空襲部隊は「全日本號」の参加をも得て愈々たる大空中陣を張つた、正午頃より始まつて一次、二次、三次遂に四次まで矢繼ぎ早々に襲うてなほも出て來た敵機を四機まで撃墜して中央黨部、航空委員會等の諸機關を破壊し或ひは南京停車場、煤炭港その他を爆撃して軍用の通信運輸に大打撃を與へた。又別隊は揚子江隨一の要塞江陰砲臺に對し本格的の空襲を行ひ且つ附近の敵軍艦を二回に互つて襲ひ最精銳の寧海を大破その他の三艦にも大損害を與へた。總攻撃を續けつゝある羅店鎮戰線の〇〇

〇〇部隊は更に夜襲を行ひ兩部落を占據したが敵も今曉周家宅方面に大舉逆襲し來り我が軍のために撃退された、海軍航空部隊は大場鎮に大爆撃を行つた。

廣東方面二回の大空襲後も敵に息つく暇も與へず此日も未明より四回に互り矢つぎ早やの空襲により意のままに敵の重要軍事施設を打ち壊した、前日の空襲の結果飛行機のみでも三十一機を破壊させた程とて廣東は最早や起つ能はざる軍事的打撃を受けたものだ。

保定北方二里の大册河を楯に抵抗する堅陣の敵に對し朝來我が空襲に援けられつゝ〇〇部隊は、これを突破したため滿城を中心とする敵の左翼陣は先づ崩れ出し保定の西方に退却中だが軍これに乗じて一意保定へと猛進してゐる。

滄州攻略戦にあつては愈正面の敵主陣地に對し空陸相應じて攻撃を開始した。午後我が飛行部隊〇〇機は太原を襲撃し

同地飛行場にあつた七機と空中戦を演じて之等を撃墜し且兵舎格納庫をも爆撃したが戰闘中不幸三輪部隊長は面傷に負うた。

九月二十三日 保定前面の陣地大册河を突破した我が中央部隊は保定の北方一キロの地點まで迫り一方右翼部隊も保定西北の滿城を完全に收めて同じく愈保定近く攻め寄せ、次で南方よりも詰寄り包圍し一齊に攻撃中で一方飛行隊は前日來退却中の敵に對し空襲を行つたが、なほ城内に残留の敵は頑強に抵抗を試みてゐる、例の如く側面より進んで巧に先廻りした我が部隊は保定の西方に於て平漢線を遮斷した。

滄州前面の敵主陣地、姚官屯に迫つたわが攻撃軍は附近一帯もやはり泥濘深く行動に多大の困難を感じつゝあるが愈一齊に總攻撃に移つたが午後六時半敵線を突破し次で追撃に移つた一方本戦線の痛で

あつた馬廟西北の大城市は遂に陥落し同時に敵の津浦平、漢兩線の連絡は遮断されるに至つた、なほわが第〇艦隊飛行機〇〇機は本線の兗州、濟寧及び徐州を空襲したが山東省内の敵根據地を襲つたのはこれが最初であつて兗州襲撃の際わが一機の犠牲を出した。

羅店鎮方面にあつては上陸後滿一ヶ月を迎へた〇〇部隊は勇躍して午前九時より前面の敵に對し第三次の總攻撃を開始した、又砲兵部隊はこの方面の敵の重要地點を新たに發見し終日猛烈なる砲撃を加へた。

我軍海軍航空部隊は此日も亦午後より江陰砲臺の砲撃を行つたが、既に深手を負つた寧海型の軍艦が逸走せんとするを發見再び擲弾したので大破し遂に自ら擱坐するに至り他の三艦にも更に損害を加へた。

この日も廣東に對し未明より續けざまに

四回に互る空襲を行ひ市中及び郊外の軍事施設撃破を續行した。尙江西省南昌飛行場を空襲し又廣東をも空襲して軍官學校總司令全部飛行場等に大損害を與へた尙又津浦線前の山東省〇〇〇〇の空爆も行ひ兵舎停車場等にも多大の損害を加へた。

英大使ヒューゲンソン氏負傷事件は誠意を以て調査し我外務當局と駐日英大使クレギー氏との努力の結果廣田外相の最後の回答を以て圓滿解決を告げた。

九月二十四日 統制協議會規程（勅令五三

二號）發布

保定は遂に陥落した、我が各部隊は拂曉より一齊に火蓋を切つて攻め立て攻め立て火の雨を降らせた十時頃に至り我が巨弾により城壁の一角が崩れるや忽ち勇敢なる我が軍は足場を得て一角を占領、續いて北門、西門と占據する間もなく一時に城内に殺到しかつて午後一時半敗敵を

殲滅し終り午後三時半堂々入城し城頭高く日章旗は翻つて河北省の首都北支の戰略上の中心たりし保定は涿州陥落後僅に一週にして武勇並びなき我が軍の手に歸し茲に北支戰は決定的のものとなつた。

此日午後五時を期して滄州總攻撃を開始してより早くも敵陣の一部を突破したため附近の敵は東南方と南方とにけ退却を開始するに至つたので我が軍すかさず猛烈に進撃し赤柴、長野、沼田の各部隊は捕つて滄州前面最前線に達し一齊に敵トチカに對し攻撃を加へ遂に午後六時過ぎ之を占領するに至つた

綏遠における軍事上の重要點平地泉（集寧）は我が軍及び友軍が三方面より進撃してゐたが先に山西より入つた千田部隊は二十三日その付近の高地を占據して攻撃を開始し一方東北方より進撃した岩根部隊も蒙古軍と協力し空軍の砲撃と相待つて一舉に攻め立て遂に午前九時これを

占領した。

昨二十三日總攻撃を開始せる羅店鎮戰線にあつてはその南端にある「白壁の家」を勇敢なるわが工兵隊が坑道を掘つて爆破し和知突撃隊のために進路を開いた結果同日夕方さしもの堅陣も破れ、我が軍は一齊に進出したが、朝來〇〇部隊も攻勢に出で午後四時頃羅店鎮より劉家行に通ずる道路付近の敵陣地を突破して進出和知部隊との聯絡がつくやうになつた、劉家行前面の敵に對してもわが三部隊が呼吸を揃へて一齊に猛烈なる砲撃戦を行ひ戰車隊とも協同して頑強なる敵を制壓した。

九月二十五日 百貨店法施行期日（勅令五三三號）昭和十二年十月一日施行並百貨店組合令（勅令五三四號）内閣情報部官制（勅令五一九號）公布即日施行
保定入城式保定及び滄州の攻略に對し參謀總長宮殿下には寺内軍司令官にあて御

祝電を發送され陸軍大臣よりも同様祝電が發送されたが、保定では〇〇部隊長が入城して戰勝を祝ふ晴れの入城式が盛大に舉行された、北支戰に時期を劃した機會に於て天津軍司令部では當局談の形式を以て北支戰局を報告すると同時に今後の決意を示す聲明を發表した。

空軍の大活動、二十四日は漢口、此日は上海、南京、廣東と中南支の四大都市はいづれもわが海軍航空部隊の爆彈に見舞はれた、又上海にあつては閘北一帶及び浦東の敵根據地に對しわが砲兵隊と協力して爆撃を繰返し、南京に對しては午前中二回に互つて襲撃を行ひ、A隊は市黨部、市政府其他を、B隊は南京の船着場の下關にある電燈廠を、C隊は城外の無線臺、財政部を又D隊は上流の巡洋艦、下流の江陰砲臺等を爆撃した、此日は絶好の空襲日和として午後も亦二回まで襲ひ下關停車場、下關砲臺を炎燒せしめ更に

軍政部を爆破し、午後五時の最後の部隊は交通兵團、兵工廠、防空砲臺等を大爆撃し南京全市は黒煙に包まれてしまつた廣東へは夜半に出動したが敵機は立合ふ能はず地上よりの亂射の中を條々仕事をすませて引揚げ次で二回、三回と空襲を續行した、漢口は處女空襲であつて漢口武昌、漢陽の所謂武漢三鎮の軍事施設は前日いづれもわが爆彈の洗禮を受け特に漢陽の兵器廠は最も狙はれて十數彈を受けて大破し、その際空中戦を演じて敵二機を落した、この日久し振りに南昌をも襲ひ新舊飛行場を破壊した。

上海羅店鎮方面に於る二十三日來の總攻撃は二十四日夜に入つても中止せず、夕刻には楊家宅を抜いて上海街道を突破したが、昨朝に至つて〇〇部隊は主家宅附近の敵陣を奪取し更に西方陣地に向つて居り、其他の諸部隊もそれ／＼相當の進出をなしいづれも勢ひ込んで猛撃中であ

る。
河北省より山西省に入り靈邱を占領して後依然山嶽地帯を強行進撃せる粟飯原、大場部隊は長城の内城線において頑強に抵抗する敵と大激戦の後此日午前途に長城線を突破し更に省内深く追撃しつゝある、一方大同よりの南下部隊は之亦内城の雁關の險を去る十里の地黙を占領して右の部隊等と呼應して一舉に雁門關を突き破らんとしてゐる。

九月二十六日 我國と暹羅國との和親修交

は明治二十年九月二十六日であつて此は正に其の儘五十年月に當るので兩國關係有志者間で記念會が開催せられた。

〇〇艦に御乗艦の伏見宮博義王殿下には廿五日黃浦江上にて御執務中輕微ながら御負傷遊ばされたのである、暫く膠着状態となつてゐた江灣鎮方面に數日前上海に上陸した新精銳の山田部隊が参加して廿六日より火蓋を切つた。

は永津部隊猛進し午後三時半突撃に移つて羅店鎮、劉行鎮間の街道に沿ふ敵陣地を突破して要點沈家橋を占據し、饒森部隊も亦之に並んで著るしく進出したため二十四日以来劉行鎮前面の石井部隊と共にいよいよ劉行鎮を壓迫するに至つた。

我が海軍機はこの日も二回互つて廣東の夜襲を行ひ軍官學校その他を爆撃した午前十時頃更に海南島の北端の港海口に於てわが軍艦〇隻と共にその砲臺に對し再度の攻撃を加へた。正午わが海軍航空隊は浙江、江西を結ぶ新鐵道浙贛鐵道の要點浙江の金華、衢州、江西の上饒、九江を空爆して軍需品輸送の途を絶つに努めた。

保定、浙州の占領後もわが軍は夫々追撃の手を緩めず津浦線方面では滄州より敗退の敵は二十五日はその南方二里ばかりの碾々河に據つて抵抗を試みてゐたが、線路を中に三路より進撃する我が軍を支

へ切れず二十六日更に南方へ後退を續けつゝある、平漢線方面にあつては木村部隊は裝甲車を以て保定を距る南方二十里の新樂まで長驅して激戦の後、敵を更に南方へと走らせた、しかし津浦、平漢兩線の中間地帯には大城占據後も殘敵はなほ子牙河の西岸地域に蟠居してゐるためわが軍は大部隊を以て沙河橋附近を攻撃中であつて、一方之に應じてわが空軍はその南方の河間、獻縣、阜城等の要地を爆撃して後方を擾亂した。

九月二十七日 津浦線方面にあつては滄州

より逃ぐる敵を追うて午前十一時頃には快速の桑田部隊は滄州より二番目の驛馮家口まで進出した、中部の子牙河西岸の地域にあつては沙河橋を前日の内に突破して午前中に早くも獻縣近く寄せて來た。地上大部隊の進迫と共に空襲部隊は前日に續き此日も朝から痛烈なる爆撃を同地に加へた、わが空軍は更に津浦線上

の次の要地泊頭鎮及び滄州陷落後に於ける本戦線の新本據と目すべき省境に近い山東の德州に對し爆撃を行つた。

上海羅店鎮、劉行鎮一帶は敵將が斷じて落ちぬと豪語してゐる程の永久的の大據が築かれて居りその附近の各部落にも堅固の陣地が設けられてゐるが、劉行鎮の如きは既に我が軍の包圍體勢下に入り二十七日も膠森部隊の突撃により無電臺附近の地を突破しなほ秋涇クリークを距て、正面附近に迫りつゝあつていよ／＼劉行鎮の本陣にぶつかるとなつた、又海軍航空隊の一部は午後一時より劉行鎮の上空を飛んでその砲兵陣の爆破に當つた、一方海軍機は例の頑固そのもの、開北の敵陣地に對し飽くまで猛爆を續けた、南京方面では聊か趣向を變へて南京郊外にある軍需工業の國營硫酸工場を空襲した、更に南京の對岸、津浦線の終點浦口驛の空爆を行ひ軍需品輸送の防遏に

努めた。

この日海空隊は廣東方面鐵路の破壊を主眼とし午前九時半粵漢鐵道の終點廣東の黃沙驛に對し爆弾を投下し、同十一時頃には省境附近で鐵橋の多い樂昌宜章間や韶關鐵橋附近、連江附近の鐵橋等を爆撃した、湖南省内にわが爆弾が落ちたのはこの日が最初である。之がため粵漢線は各所に大破損を生じ列車の運行不能となり電信電話線も切斷されたといふ。

なほ廣東市内外の軍事機關に對しても空襲したこと勿論で夜中から午前中に四回に亙つて行はれ又從化、虎門の兩飛行場も襲つて前者に於て敵機一機を爆破した

九月二十八日

上海戦線にあつては一轟を奪取するにも非常な困難と犠牲とが伴ふのであるが二十八日は第一線に於て重要な敵陣を相次で抜き更に我田上部隊は夕刻猛突撃を敢行遂に目前の大物劉行鎮の北端を破つて大きな戦果を收め得た。

北部戦線では右翼の高橋部隊が前夜より行動を起して羅店鎮西北の陣地二三を戦ひ取り、中部戦線では楊行鎮を背景として南方の敵に向つて津田、福井兩部隊も前夜より猛砲撃を開始し昨朝賣宅と呼ぶ部落陣地を占領し上陸以來初の勳功を樹てた。

海軍航空部隊は此日未明安徽省奥地の廣得を急襲して飛行場格納庫等を爆撃した、午後一時頃又も南京空襲を行ひ空中戦にて一機を撃墜、郊外の大校場飛行場を襲撃又句容飛行場をも見舞つて格納庫及び飛機二を爆破した、更に同時に始めて揚子江の重要開港場蕪湖を襲ひその飛行場と燃料庫を大破し五機を失はしめ更に空中戦闘で一機を失はしめた、廣東省ではこの日も前日に續いて從化飛行場、琶江口兵工廠及び粵漢鐵路を爆破したが、始めて唐家灣の飛行根據地を襲撃した。

河北津浦線方面は昨日確實に滄州の二番目の驛馮家口の線まで出揃つた中部地帯にあつてはこれと略併進して獻縣の近郊まで押し寄せた、平漢線の味方は新樂南方二里の地點まで長驅してゐる。

山西戦線の内我が軍は激烈なる山嶽戦の末内長城線の最も重要な關門如越口を占領した、これがため西方の雁門關を守る敵は直に脅威されるに至り山西戦線は俄然異状を加て來た。

九月二十九日 防空法（昭和十二年四月二日法律四七號）昭和十二年十月一日ヨリ施行（勅令五四八號）防空法施行令（勅令五四九號）官廳防空令（勅令五五〇號）
久しく守勢をとつたままで待機してゐた開北戦線の我が海軍陸戦隊は二十九日俄然攻勢に出づると共に猛烈なる進撃を開始した、午前八時を合圖に海軍航空部隊〇〇機が出動して北停車場を中心とする開北に凄まじい雷を落し初めるや北四川

路一帶の海軍將兵は虬江路付近から敵陣に向つて突入し初め又復市街戦が演ぜられるに至つた。一方浦東の敵は前面のわが軍艦出雲に對して猛烈に砲撃し來り砲彈はわが總領事館付近に盛んに落下するので江上の我が艦艇と海軍機とは一齊に反撃を加へ同夜も猛烈に砲撃を行つた。廟行鎮の背後を脅かす體勢をとつて楊行鎮の西方を吳淞クリーク近くまで進出した新進の意氣高き津田部隊は前日大部隊の敵の逆襲を受けたが之に大損害を與へて撃退した。

山田砲兵部隊が一齊に砲門を開き吳淞クリーク北方に殘存する敵陣地に對し猛砲撃を開始した、劉行鎮へ突進したわが戦車は廿九日もその前面の大クリークを渡つて破壊し盡された劉行鎮一帶は火を發して盛んに燃えつゝある津浦線の敵主力は山東の德州へと退却を續けて居り追襲のわが諸部隊は全く破竹の勢ひで二十七

日馮家口、二十八日泊頭鎮と續げざまに手を收め二十九日は早や東光縣城に達し部隊空襲の爆撃の後をうけて午後五時よりこれに攻撃を開始した。

内長城線の重要關門たる茹越口を占領したわが部隊は山西平野を下り二十九日午後繁時は陥落した、敵は早くも代州方面へ總退却した。

昨日も亦廣東はわが海軍航空部隊によつて空爆された、市内外の殘存の軍事關係機關を爆撃した一方黃埔軍官學校、虎門砲臺等を空襲虎門附近では敵艦隊和をも襲撃して支那革命史に名高き同艦は多大の損害を蒙つた。

北支陸軍最高指揮官寺内大將は保定に赴き前線狀況を視察し將兵の勞苦を憐ひ且激勵した。

九月三十日 内務省官制中計畫局を加設するの改正。（勅令五六〇號）

上海市街戦開北の市街戦は前日に引續い

て彼我共に血みどろの戦ひだ、陸戦隊は左翼に於て租界境を北停車場の方面へ戦車と共に向つたが頑強なる敵の抵抗に會ひ北四川路より僅五六十米位の地點で凄惨なる死闘の結果敵を奥の方へ撃退し中央方面では三義里附近が中心で狭苦しい中で街上と言はず屋上と言はず突撃を繰返しつゝ逐次進出してゐる、右翼は寶興路方面で之も家から家へ壁に穴を明けつゝ進むやうな混戦を以て漸く鐵道線路まで押して行つた我が海軍機は掩護のため

に盛んに敵陣地へ爆彈を投じた。
河北津浦線河北省内の最後の要衝東光線は前夜殆んど戦はずして我が軍の手に歸したが更に前進し先鋒は既に省境附近に達した、又これと併して中部地帯を征伐する部隊は前日正午獻縣を占領して更に續進中だ、平漢線のわが先頭部隊は新樂より更に南下して早くも正定を去る四里の地點まで達した。山西進撃の我が右翼

部隊は二十八日午前十日朔縣を占領し更に三十日午後六時甯武を領領し左翼としては粟飯原、大場部隊が山西の東北隅靈邱方面から山嶽地帯を傳ひて平型關で内長城を越え三十日大營鎮まで出て來た、中央部隊に至つては茹越口、鐵角嶺、魏家庄、繁時を経て更に代州を占領した。國民精神總動員中央聯盟創立準備打合會は首相官邸に開催、全國神職會々長水野鍊太郎、中央報德會理事中川望、日本赤十字社長徳川家達公、大日本聯合青年團理事長香坂昌康、大日本女子青年團理事長吉岡彌生、明治神宮奉讃會々長有馬良橘大將、の諸氏を始め六十餘名出席、府側より馬場内相、安井文相等等列席、現下の非常時局に處して舉國一致、國民精神總動員の實を擧げるため中央聯盟を設立し政府の外廓團體として活動する事となつた。

十月一日 神宮祭主大勳位久邇宮多嘉王殿

下薨去。

上海劉家行（劉行鎮）は遂にわが軍の手に歸した、既にその一部を占領し、わが戦車隊で頑張つて來たが田上部隊が砲工部隊の協力を得てもぐら戰術を利用しその南半分の頑敵に對し昨朝來猛襲を開始し午後三時四十分完全に占領するに至つた、一方鷹森部隊も前日に引續いて羅店鎮劉家行街道附近の敵を着々撃破しつゝあつてこの間の街道は今や全く我が軍の確保するところとなつた、この日の戦果は上海戦にあつて大書せらるべきものである、海軍航空隊では陸軍と協力して劉家行方面に次いで次の戰場たる大場鎮、嘉定、南翔の敵陣地及び閘北一帶に對し猛爆撃を行つた、閘北總攻撃、第三日も前日に引續く激戦を以て相當の收穫を收めた、目下の上海戦にあつては郊外戦でも一壘を抜くことは容易でないが、市街戦に至つては更に一屋を奪取することも

頗る容易でない、北四川路より進撃するわが部隊の右翼方面は前日鐵道線まで突き進んだが、その一部は中央を進む味方と協力してその敵を背後から衝いて懸命の努力だ、中央の部隊は戦車隊の助太刀を得て昨午後啓秀女學校内の敵陣を破つて之を占領した、左翼部隊は此日も邦人經營の上海印刷の大工場を本據とする敵になほ惱まされ終日激戦を繰返した。

海軍航空隊は三十・一兩日に互り廣東の東山、黃埔軍艦等を爆撃した。

追撃また追撃南へ長驅を續けるわが軍の先鋒ははや河北より山東の地に入つたのである、一日午前桑田部隊が德州手前五里の山東省入口にある桑園鎮を占領した、愈々德州攻撃の段取となつたのである、代州から後方を脅かされるに至つて雁門關の天險に據つてゐた敵は狼狽して逃げ出してしまつた様子で三方より攻め入つたわが軍は今では東は大營鎮、中央

は代州、西は寧武に出揃つて引續き歩調を整へつゝ三路を以て敗走の敵を南方へ壓迫しつゝあるが、東部、中央の線で敗れた山西軍、舊東北軍等の弱軍は目下天下の名山五臺山附近の山地に逃げ込み我が軍の爲めに狩出されようとしてゐる。

十月二日

上海劉家行一帯の占領に氣をよ

くした第一線の各部隊は一層ハリキリ二日も更に全線に互つて押して行つた、石井部隊は荻涇クリークを強行渡河した後方面では劉家行に次いで重要な顧家宅陣地を占領し、右翼方面にあつても永津部隊は劉家行嘉定間の最重要點沈家橋一帯を乗つ取つたもので、數日間には戦線は餘程進められて來た、この日の海軍機は劉家行、羅店鎮附近の諸陣地一帯大場鎮、嘉定に對して爆撃を行つた、この日劉家行附近爆撃中の一機は火を發しそのまゝ敵陣地に突入して篠原兵書等は壯烈な最後を遂げた、江灣方面にあつて

は暫く振りを以て淺間部隊、安達部隊が進出し、前者は江灣鎮の前面の小部落先の上海事變に林聯隊長の戦死した嚴家宅を占據した。

陸戦隊の關北總攻撃の第四日の二日は朝來更に激烈に行はれ右翼方面では砲兵隊の掩護の下に押し込んで行き例の印度人教會を占領して商務印書館を望むに至り中央方面では三義里を著るしく蠶食し、左翼方面では前日赫司悌路内に進入した我が部隊は同路中の最大建物工部局、公立支那人小學校、上海印刷所等を占領したが午後四時頃より北四川路正面の敵の一部は後退を開始して鐵道線路まで退いたが敵はなほ頑強に抗戦を續けつゝある山東省に入つて德州の近郊まで達した先進部隊は一日夜より攻略戦を開始する一方後續部隊の到着を待つてゐるが、昨日は朝來空軍と呼應して更に猛烈なる攻撃を續けつゝある。